

# 令和6年度事業活動報告

実施日	概要
4月 23 日	役員会開催
5月 17 日	令和6年度定期総会が本町集会所で開催され、6議案の全てが承認可決されました。 高瀬章会長が4月にご逝去されたことにより、浩美自治会会长の十河美津子氏が新会長に選任されました。
6月 4 日	地域懇談会が(一社)よみがえる兵庫津連絡協議会と共に兵庫津ミュージアムで開催されました。 県会議員・市会議員・県・市関係部署の皆さんと、地域兵庫津の活性化を目指し、車座会議の形で情報を交換し共有しました。
10月 14 日	兵庫運河祭がスポーツの日の祝日に開催されました。快晴に恵まれ早朝から親子連れの家族・高齢者の多くが集まりました。今回は神戸大学大学院の山口秀文先生が、学生と共同で兵庫津の4偉人(高田屋嘉兵衛、工楽松右衛門、北風正造、神田兵右衛門)の人型パネルを出展し、スタッフとして頑張りました。子供たちは、パネルの偉人の顔が丸く空いたところに顔を覗かせて、お父さんやお母さんにスマホで記念写真を撮ってもらった後、福引くじを回して美味しいお菓子をもらい大喜びでした。兵庫木遣音頭保存会は、イオンモール神戸南の特設ステージで、神戸市無形文化財の厳かで気高い踊りを舞つてフィナーレを飾りました。
10月 20 日	宮津市福祉・教育総合プラザにおいて、北前船に関する関西地区の寄港地が連携した共同事業として、「関西北前船研究交流セミナー」が開催されました。当会からは、十河会長、高田実行委員長、六條副会長が出席し貴重な情報を共有しました。
10月 31 日	兵庫県は、ひょうご津ミュージアムにおいて「ひょうご日本遺産フォーラム～ひょうごフィールドパビリオンを通じた新たな魅力の発信～」と題した講座を開催しました。参加者は、日本一の9件の日本遺産の各市町担当者、活動団体関係者、観光関係者、大学生、一般の方など80名。当会からは、高田実行委員長他2名が出席しました。日本遺産関係者の共通課題である広報実践研修について、講義と11のグループが①広報表現の基礎②広報メディア設計・マトリクス作成を討議し多くの知見を習得しました。
12月 6 日	忘年懇談会が、本町集会所で開催されました。十河会長、高田実行委員長、六條副会長はじめ、今年度加入された会員のみなさんが、これまでの活動経緯、これから取り組みなどについて意見交換をし、情報を共有しました。
1月 16 日	1月17日は、阪神淡路大震災の日から30年目になります。当日天皇皇后両陛下が追悼式典にご臨席されますが、前日の15時に両陛下は県立兵庫津ミュージアムにご来臨いただくことになりました。当会も地域の方々に前もって沿道での奉迎を周知しました。当日はミュージアムの横の歩道から山側の歩道に縦4列の5千人以上の観衆が延々と整列しました。高田実行委員長兼(一社)よみがえる兵庫津連絡協議会会长の用意された500本の日の丸の旗も配られました。 兵庫県民局長と高田実行委員長は、ミュージアムの中で送迎のご挨拶をされて、17時に両陛下はご出発されました。 天皇陛下は学習院大学の卒業論文を「中世の交通史・流通史」とされ、兵庫津についてもご研究されて、皇后さまに丁寧にご説明をされておられたそうです。兵庫津の面目躍如で栄誉なことです。
1月 19 日	県と市は、阪神淡路大震災から30年目の年として、兵庫区歴史講演会を県立兵庫津ミュージアムで開催しました。第一部の講師はサンテレビの当時のカメラマン・井田和秀氏で、被災者の写真は公開せず、被災者の生活に必要な情報の発信に努められました。次いで、兵庫津の神戸市無形文化財である兵庫木遣音頭が披露されました。第二部の講師は、兵庫県の山下史郎氏で、震災が転機となつた文化財保護について、貴重な県の活動が報告されました。
2月 6 日	(一社)よみがえる兵庫津連絡協議会と兵庫漁業協同組合主催、当会などの共催で「兵庫津の未来を探るシンポジウム」が、兵庫津ミュージアムで開催されました。講師は徳島大学の中西敬教授と神戸大学の山口秀文講師、パネラーには兵庫漁協、兵庫運河関係の方、能福寺の住職など4名が参加されました。講師の方々の兵庫津に関する研究成果の発表に続き、参加者の期待する兵庫津の未来像と課題の意見提起があり、パネリストの適切な回答の後、形を変えたこのシンポジウムの継続的な開催を確認しました。
年間	地域内外の個人・団体のスポット観光客には、年間を通して高田実行委員長・六條副会長はじめ役員・会員がガイド役としてその都度、懇切丁寧な対応をさせていただきました。